

未来は、つくれる。

KATARIBA

Shape the Future



Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION



認定特定非営利活動法人カタリバ
みんなのルールメイキング
調査研究結果レポート

2025

目次

3

調査の背景

- 4 本調査実施の背景（認定NPO法人カタリバ みんなのルールメイキング事業部）

5

本調査の目的および研究課題

- 6 本調査の目的と概要
7 本調査の研究課題

8

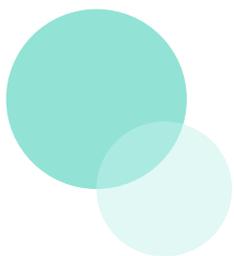
結果・データセクション

- 9 本調査でわかったこと
11 **【調査研究課題①】** 意見や考えを伝えたり、聞いてもらえたりすることに関する生徒のニーズ
15 **【調査研究課題②】** 生徒が意見や考えを伝えたり、聞いてもらえたりすることに関する実態の把握
17 **【調査研究課題③】** 意見や考えを伝えたり、聞いてもらえたりする機会が充実した学校の生徒の特徴
20 **【その他の分析結果】** 不登校傾向との関連性
21 **【考察】** 結果から見えてきたこと

22

おわりに

- 23 専門家によるコメント
24 みんなのルールメイキング 事業概要
26 学校事例の紹介
27 調査研究実施体制について
28 参考: 調査票の全設問・回答一覧



調査の背景

はじめに

本調査実施の背景(認定NPO法人カタリバ みんなのルールメイキング事業部)

2022年の『生徒指導提要』改訂や、2023年の「こども基本法」施行など、近年、子どもの権利や意見表明を尊重する動きが加速しています。2025年に文部科学省が公表した全国調査では、令和に入ってから9割以上の中学校・高校で校則変更が行われたことが明らかになりました。さらに、変更を行った学校のうち約85%が「生徒や保護者から意見を聴取する機会を設けている」と回答しており*1、生徒の声を取り入れた校則見直しは全国的な広がりを見せています。

認定NPO法人カタリバでは、こうした流れに先駆け、2019年より生徒主体の学校づくりを目指す「みんなのルールメイキング」を推進してまいりました。現在、本プロジェクトの連携校は全国600校以上にまで広がっています。当初は「校則・ルールの見直し」からスタートしたこの取り組みも、各地の学校現場とともに試行錯誤を重ねるなかで、現在はより多様なテーマへとその領域を広げています。

こうした数多くの現場で生徒たちと対話を重ねるなかで見えてきたのは、**生徒たちが意見を伝えたいと感じている事柄は、必ずしも校則だけではないという実態です。**授業の進め方や学級のルール、学校行事、部活動、さらには施設・設備にいたるまで、学校生活のあらゆる場面において多様な要望や意見が挙がっています。

現在、中央教育審議会における次期学習指導要領の議論においても、身近な社会である学級・学校をフィールドとした「意見表明」「合意形成」「参画」の機会をより充実させる必要性が示されています。具体的には、特別活動などを中心に「生徒主体のルール形成や学校生活改善、行事の創造等」といった取り組みが求められています*2。また「こども基本法」の理念等を踏まえても、子どもたちにとって最も身近であり、多くの時間を過ごす「学校」において、意見聴取や参加の機会を広げていくことは重要であり、今後はより多様なテーマ・機会へと広がっていくことが想定されます。

しかし、こうした学級・学校のより幅広い場面における生徒の意見表明・参加機会の実態や、生徒自身がどのような方法・環境で意見を聴かれることを望んでいるのかについては、これまで十分な調査が行われてきませんでした。

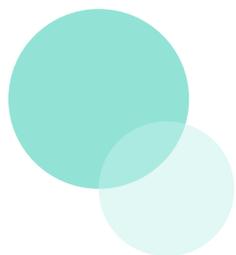
そこで今回、学校における意見表明・参画の機会の実態やニーズについて、より幅広いテーマでの検証を行うとともに、学校における機会保障がどのような効果につながりうるのか等を明らかにするため、全国の生徒約3,000人を対象とした大規模実態調査を実施しました。

本調査ではさらに、学校のなかで特に「声が届きにくい」状況にある生徒、すなわち不登校（30日以上欠席）や不登校傾向（教室外登校など）にある生徒たちの実態やニーズについても詳細な分析を行っています。

本レポートは、実際の生徒の声の分析結果から、各自治体における子どもの意見表明・意見反映事業のほか、学校現場での具体的な声かけや関わり方を検討するうえでもご活用いただける内容となっています。全国における子ども支援や学校関係者の皆様が、各現場で「子どもの声を取り入れた学校づくり」を進めていく上での一助となれば幸いです。

*1 文部科学省（通知）校則等の見直し状況調査結果及び今後の取組について https://www.mext.go.jp/content/20250702-mxt_jidou01-000043523_1.pdf

*2 文部科学省 教育課程企画特別部会 論点整理 p.102 https://www.mext.go.jp/content/20260129-mxt_kyoiku01-000045057_01.pdf



本調査の目的 および研究課題

本調査の目的と概要

目的と概要

学校における子どもの意見表明・参画の機会の実態やニーズについて検証を行うとともに、そうした機会保障がもたらす影響について検証することを目的とした。こども基本法の施行や生徒指導提要の改訂、子どもの声を取り入れた校則見直し(ルールメイキング)の推進といった社会動向を踏まえ、本調査ではこれまでの「ルールメイキング」の枠組みを越え、行事・施設設備など学校生活の幅広いテーマについて検証した。全国の中高生約3,000人を対象とした大規模なインターネット調査を通じて、生徒の意見表明のニーズを定量・定性の両面から分析し、それが生徒の自尊感情や主体性、政治的有効性感覚などどのように関連しているのかを明らかにする。

調査期間および対象者

- 調査期間 2025年11月20日～11月25日
- 調査方法 インターネット調査
- 調査対象 全国の中学生・高校生約3,000人を対象に調査
- 有効回答数 2,986人(スクリーニング後の中学生・高校生の合計)

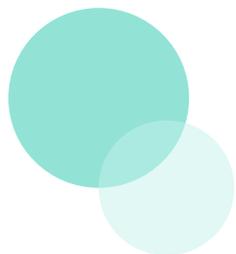
本調査の研究課題

調査研究課題

本調査では、以下の3点を主要な研究課題として設定し、検証を行う。

- ① 学校において意見や考えを伝えたり、聞いてもらえたりすることに関する生徒のニーズ把握・理解
- ② 学校における生徒の意見表明や聴取の機会に関する実態把握
- ③ 意見表明・聴取の機会が充実した学校における生徒の心理的な特徴の把握

上記以外にも、属性(性別、学校種別、不登校傾向等)などとの関連を分析した。



調査の結果 およびデータ

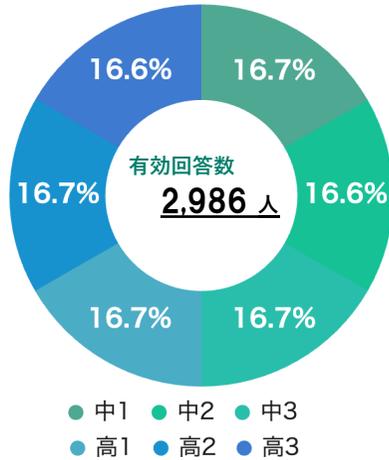
※本資料内で示している構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります

本調査でわかったこと

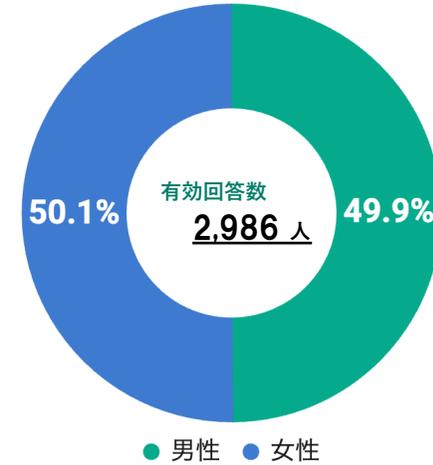
- 「生徒が意見を伝えたいと思うこと」は校則・ルールが最も多いが、そのほかの様々な場面(学校の施設・設備など)についてもニーズがみられる。
- 意見表明のために必要なのは「安心して話せる雰囲気」や「信頼できる友達や先生がいること」など
- 意見表明の機会がある学校の生徒ほど、政治的有効性感覚(自分の行動で、国や社会を変えられると思う意識)が有意に高い傾向
- 不登校傾向の子の意見表明のニーズについて、学校のいずれの場面においても低い傾向にあるが、「学校行事」のみ異なる傾向を示している。

【基本情報】 回答者の属性について

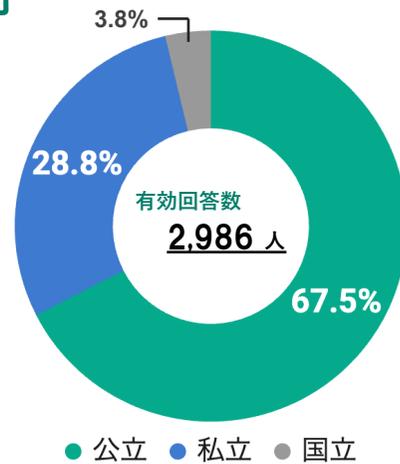
学年



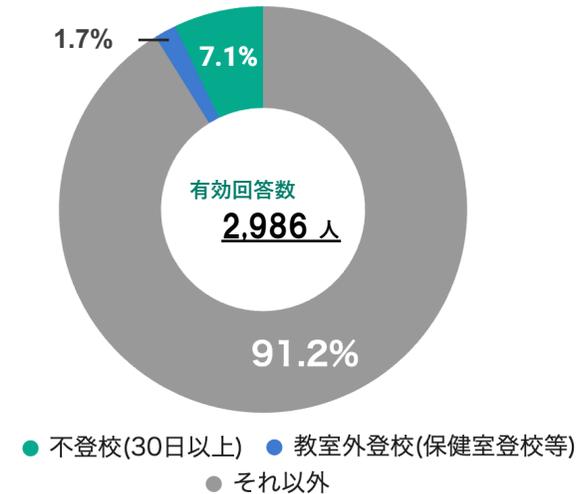
性別



学校種別

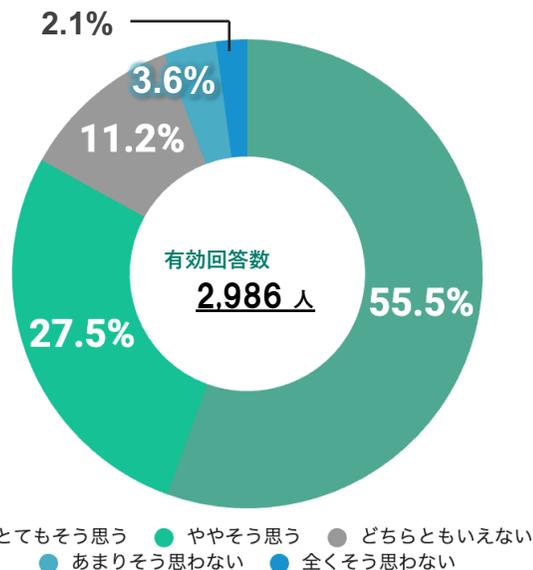


不登校傾向

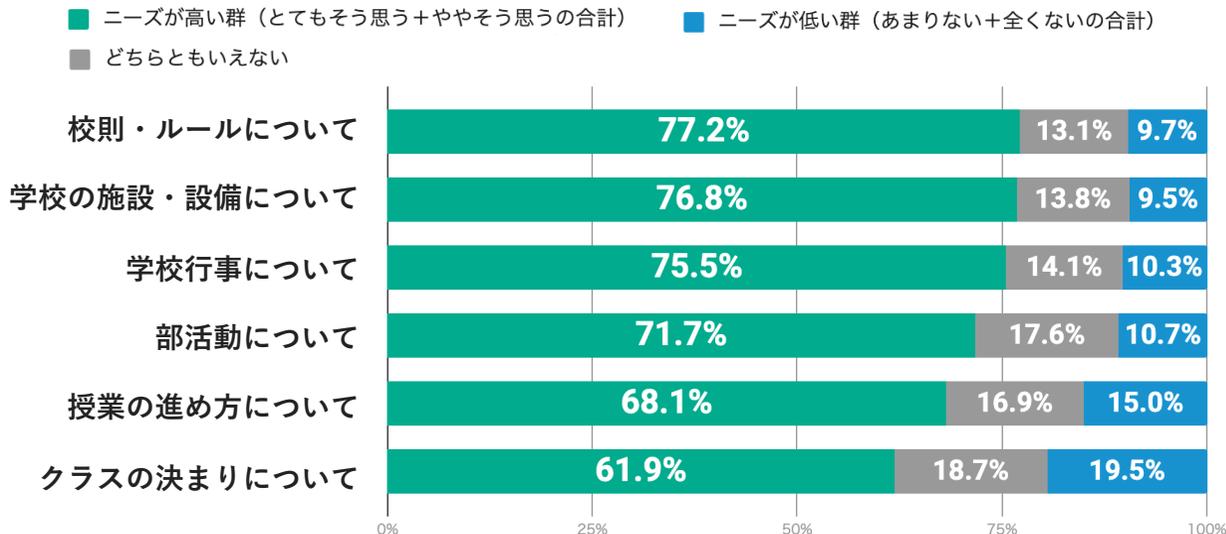


【調査研究課題①】 意見や考えを伝えたり、聞いてもらえたりすることに関する生徒のニーズ

(1) 学校における決まりごとや方針は、生徒の気持ちや思いを十分に聞いたうえで決めてほしいと思いますか。



(2) あなたは以下のことについて、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる機会がほしいですか？

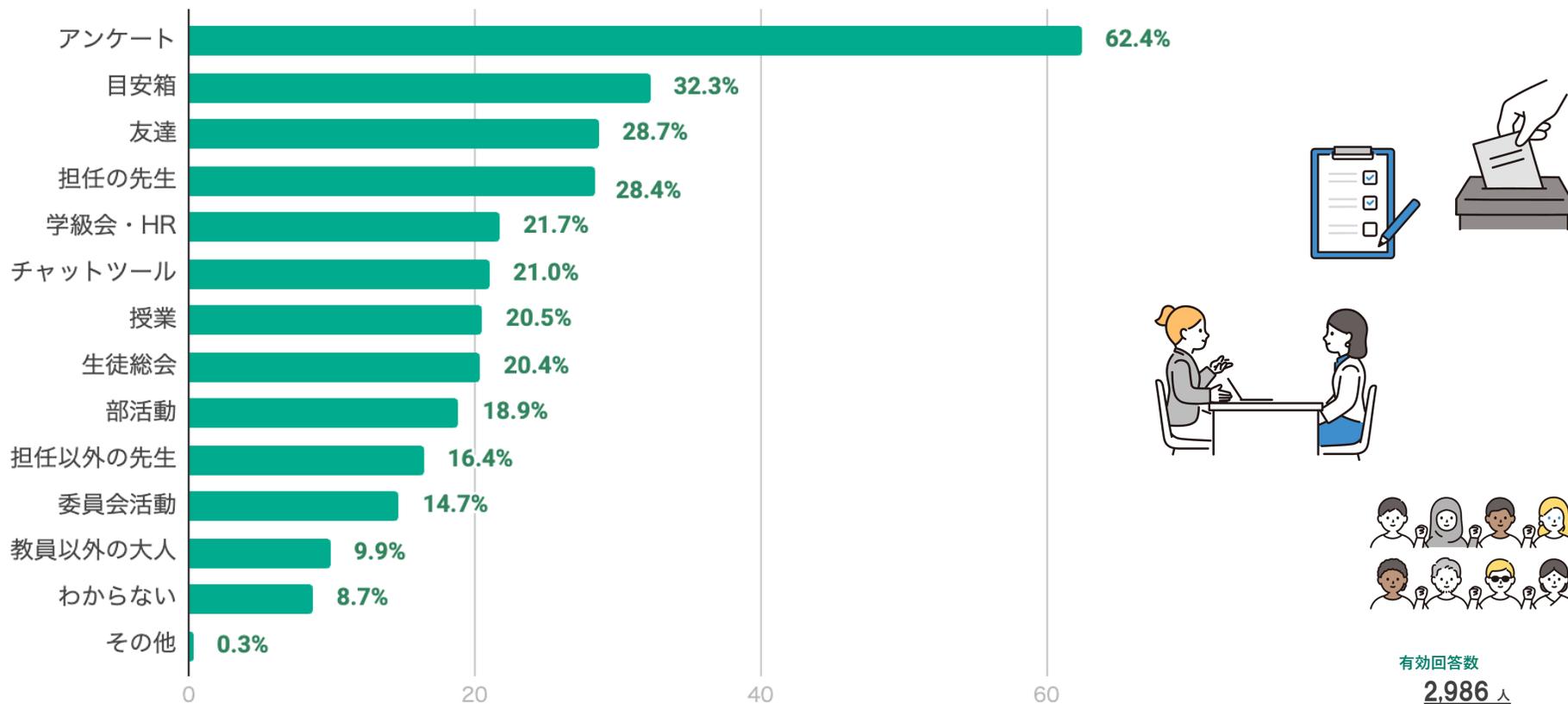


有効回答数
2,986人

校則・ルールについて「意見を聞かれたり考えを伝えたりする機会がほしい」と回答した生徒（ニーズが高い群）は77.2%に上る。学校の施設・設備（76.8%）、学校行事（75.5%）についても同様に高い傾向を示す。クラスの決まりについても61.9%と6割を超えており、学校生活の多岐にわたる場面で意見表明のニーズが存在することがわかる。

【調査研究課題①】 意見や考えを伝えたり、聞いてもらえたりすることに関する生徒のニーズ

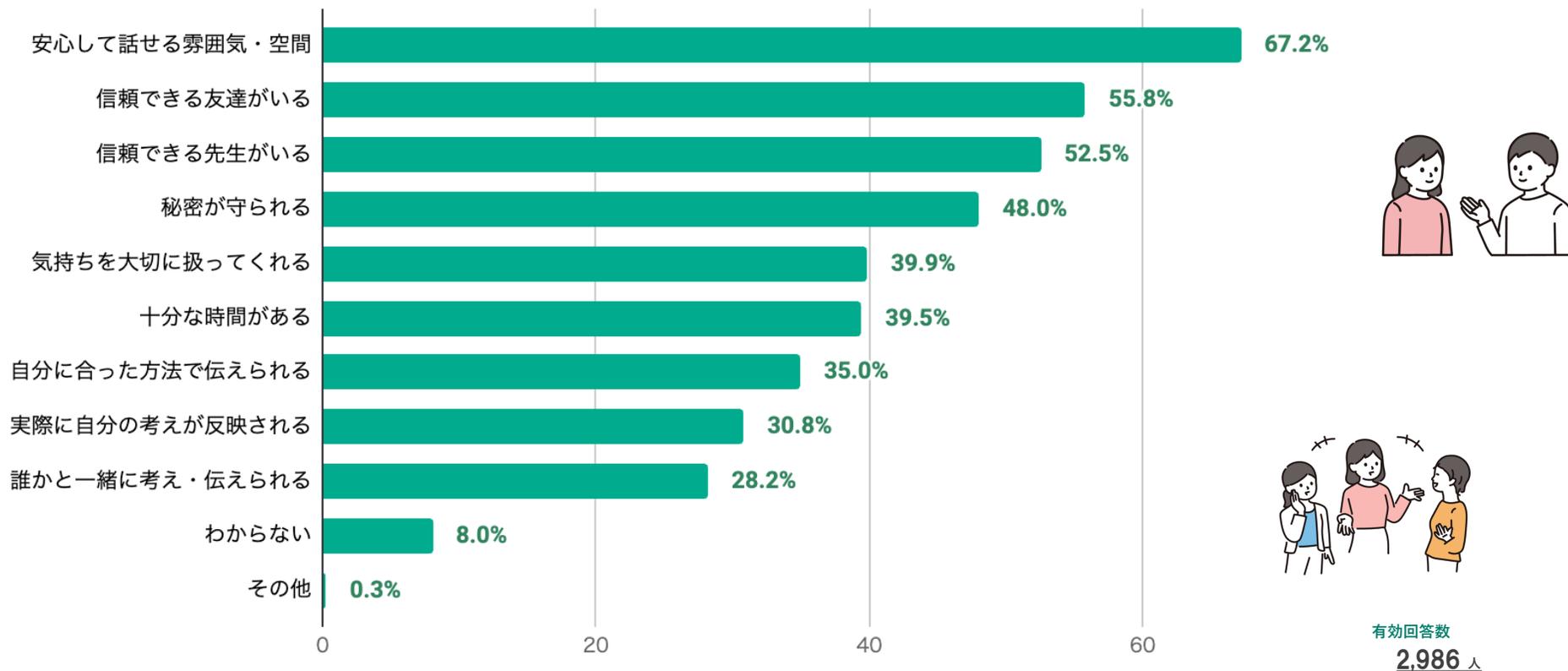
(3) 学校のことについて、あなたの気持ちや考えがよりよく伝わると思う方法はどれですか。当てはまるものをすべて選択してください。



自身の気持ちや考えがよりよく伝わると思う方法として、「アンケート」を選択した生徒が62.4%と突出して多い。次いで「目安箱（32.3%）」、「友達（28.7%）」、「担任の先生（28.4%）」がそれぞれ3割程度となっている。

【調査研究課題①】 意見や考えを伝えたり、聞いてもらえたりすることに関する生徒のニーズ

(4) 学校のことについて、あなたの気持ちや考えを伝えたいときに、どのような支援や条件があると伝えやすいですか。当てはまるものをすべて選択してください。



気持ちや考えを伝えたい時にあるとよい支援・条件として、67.2%の生徒が「安心して話せる雰囲気・空間」を選択した。次いで「信頼できる友達がいる（55.8%）」、「信頼できる先生がいる（52.5%）」、「秘密が守られる（48.0%）」と続き、心理的な安全性や人間関係の構築を重視する傾向がみられる。

【調査研究課題①】 意見や考えを伝えたり、聞いてもらえたりすることに関する生徒のニーズ

(5) 自由記述設問の分析の結果から見える生徒の具体的なニーズ*

(1) 「校則」に関する課題

*分析手法 (1) 頻出ワードのカウント, (2) TF-IDFによる重要度の得点化, (3) N-gramによる連続ごとの頻度をカウント。(1)から(3)を踏まえ、その単語が含まれる原文を目視で意味解析した。

- ・ 教員のさじ加減でアウトかセーフか決まるような校則ばかりです
- ・ 私はアウトなのになんであの子はセーフなんだ、と不満を持ったことも何度もあります
- ・ 校則に書いていないものを注意されることについて
- ・ 昔のものをそのまま使っていて今の時代に合っていない

(2) 意見反映の実感とフィードバック

- ・ 目安箱にある意見をこまめに確認してほしい
- ・ 生徒の意見を聞くだけでなく、実際に反映させてほしい

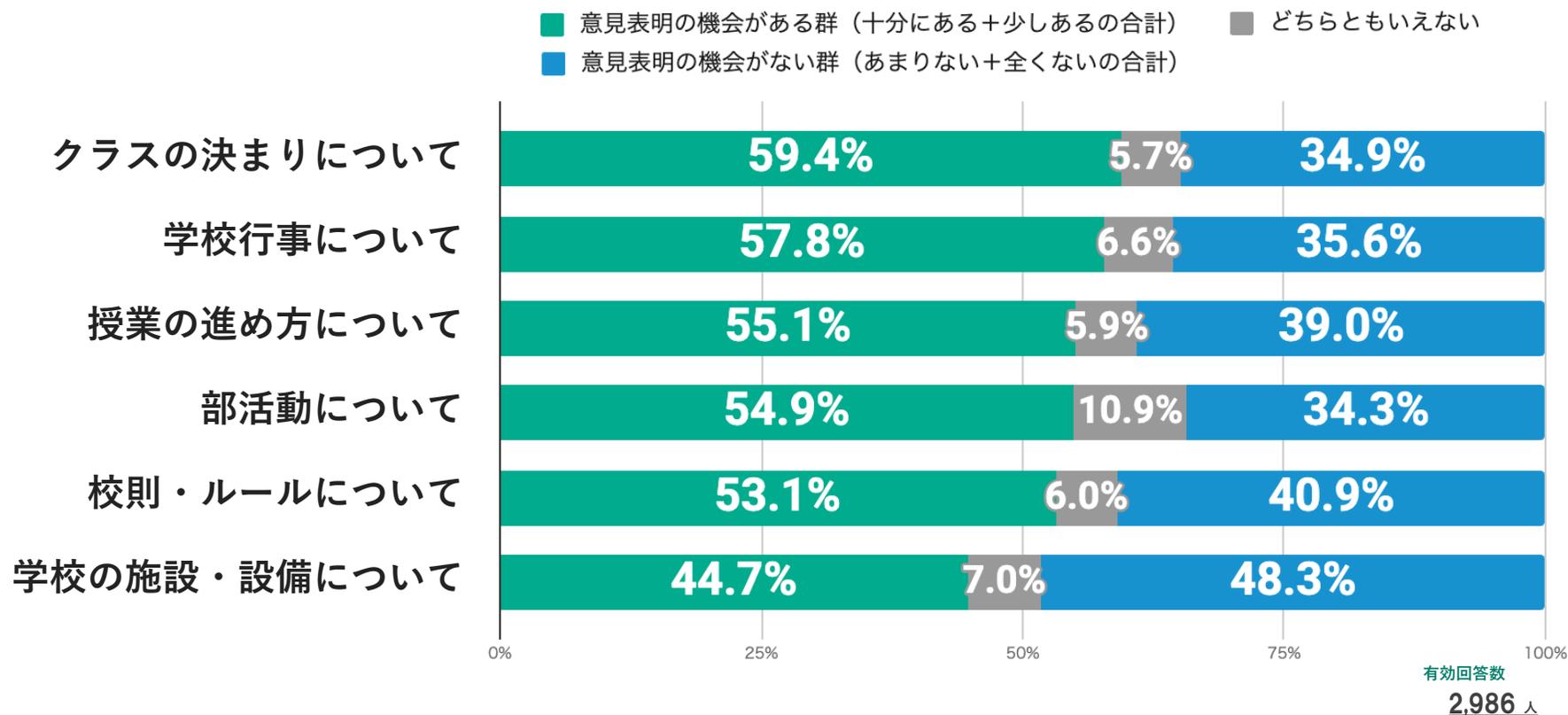
(3) 施設・設備・授業改善への要望など

- ・ 壁や廊下の設備が古くなっているのをしっかりしてほしい
- ・ 体育館にクーラーをつけてほしい
- ・ トイレを綺麗にしてほしい。和式を洋式にほしい
- ・ 学校のWi-Fiを強くしてほしい
- ・ 分かりにくい授業を改善しようともせず、寝ているお前らが悪い... (中略) と減点する
- ・ 先生によって授業の質が違いすぎる

校則に関しては単なる厳しさだけでなく、根拠の不透明さや、教員間での基準の差異による不公平感が示されている。意見表明の機会があると感じている生徒であっても、実際の反映実感の乏しさやフィードバックの欠如が不満に繋がっているケースも見られる。古い学校の施設・設備に関する具体的な要望や、授業改善に関する意見を聞いてほしいというニーズも。

【調査研究課題②】 生徒が意見や考えを伝えたり、聞いてもらえたりすることに関する実態の把握

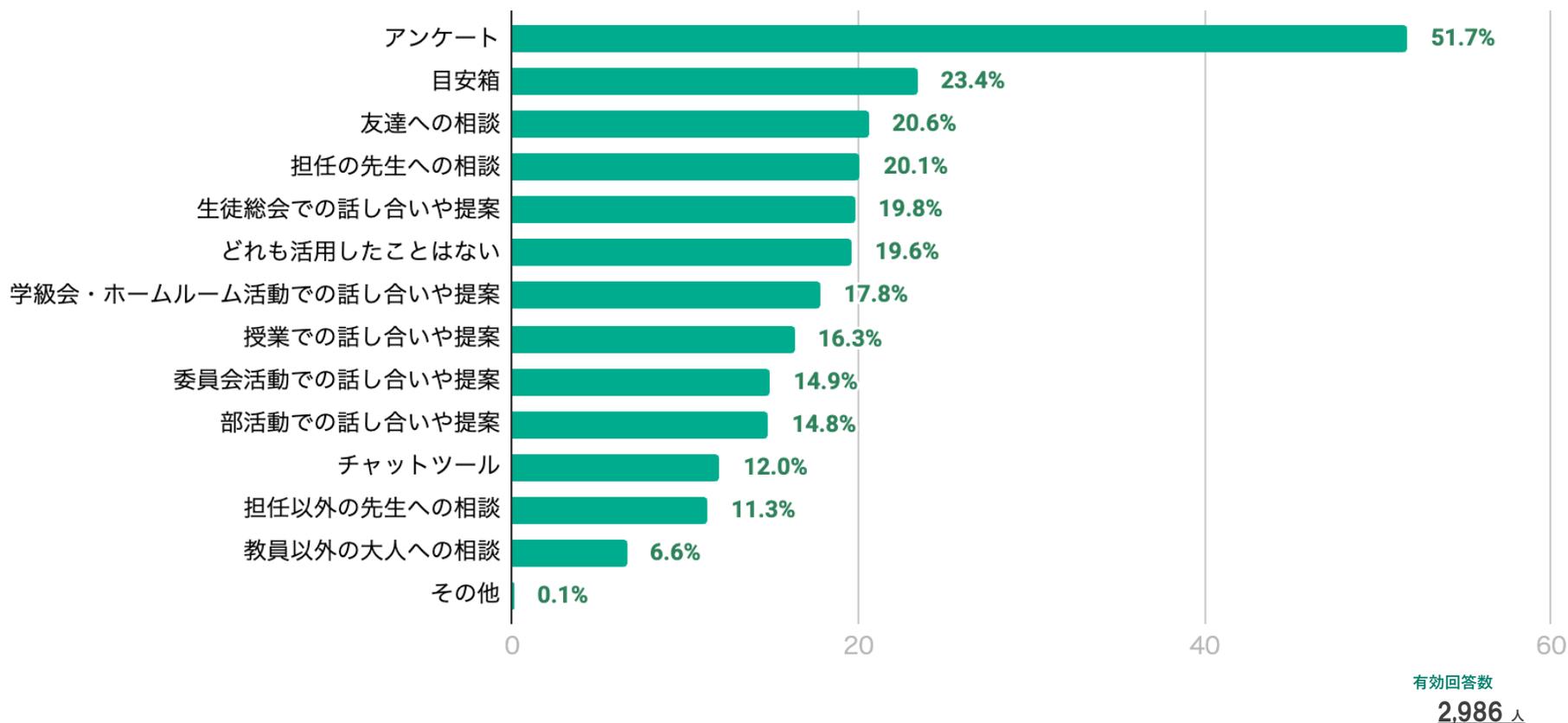
(1) あなたの学校では、以下のことについて、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる機会がどのくらいありますか？



意見表明・意見聴取の機会が「ある（十分にある+少しある）」と回答した割合は、「クラスの決まり（59.4%）」や「学校行事（57.8%）」で約6割である。一方で、「校則・ルール（53.1%）」や「学校の施設・設備（44.7%）」では5割前後であった。

【調査研究課題②】 生徒が意見や考えを伝えたり、聞いてもらえたりすることに関する実態の把握

(2) 学校のことについて、あなたの気持ちや考えを伝えるために、実際に活用したことがある方法があれば、すべて選択してください。



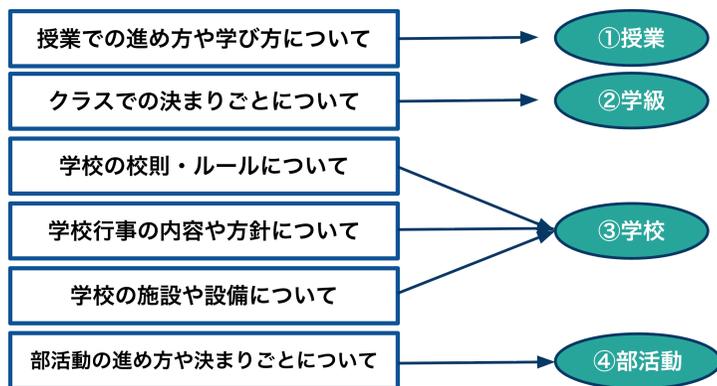
実際に活用したことがある方法として、「アンケート」が51.7%と最も多く、次いで「目安箱（23.4%）」や「友達への相談（20.6%）」が続く。多くの生徒が、学校の仕組みや身近な人間関係など、何らかの方法を通じて自分の意見や考えを伝えた経験を有していることがわかる。

【調査研究課題③】意見や考えを伝えたり、聞いてもらえたりする機会が充実した学校の生徒の特徴

調査研究課題③の比較方法について

(1) 設問をもとに4場面に分類(探索的因子分析)

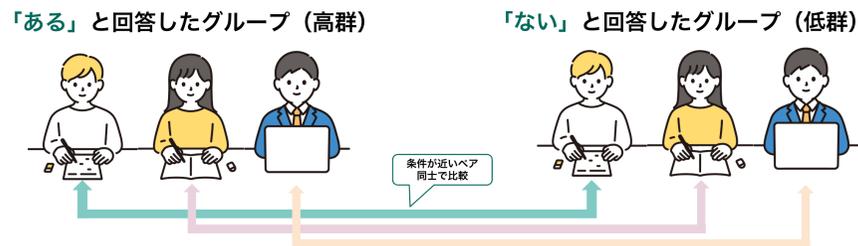
探索的因子分析の結果に基づき、「学校の校則」「学校行事」「学校の施設・設備」に関する計3項目の設問を合成し、「学校」レベルでの意見表明・意見反映の実態に関する指標を作成。*因子分析の結果、「学校」レベル以外に「学級」「授業」「部活動」といった以下の4つのグループに分類された。



*「授業」は直感的には学級生活の一部と考えられるが、因子負荷量が小さく妥当な分類結果は得られなかった。これは授業改善が単なる学級レベルのものではなく、学校全体の教育方針やカリキュラムの一環であることを示唆している。また、残差の値が大きいことから、個別の教師特性や教師・生徒間の関係性や相性などが影響する独立した領域であるとも考えられる。

(2) 準実験デザインによる比較(傾向スコアマッチング)

比較を行うにあたり、背景情報や条件が近似する個体同士を抽出して比較する手法を検討した。本調査における「条件が近似したペア」とは、属性や意見表明ニーズ、およびアウトカム(比較対象となる指標)以外の心理指標(自尊感情等)の分布が、類似*しているペアを指す。

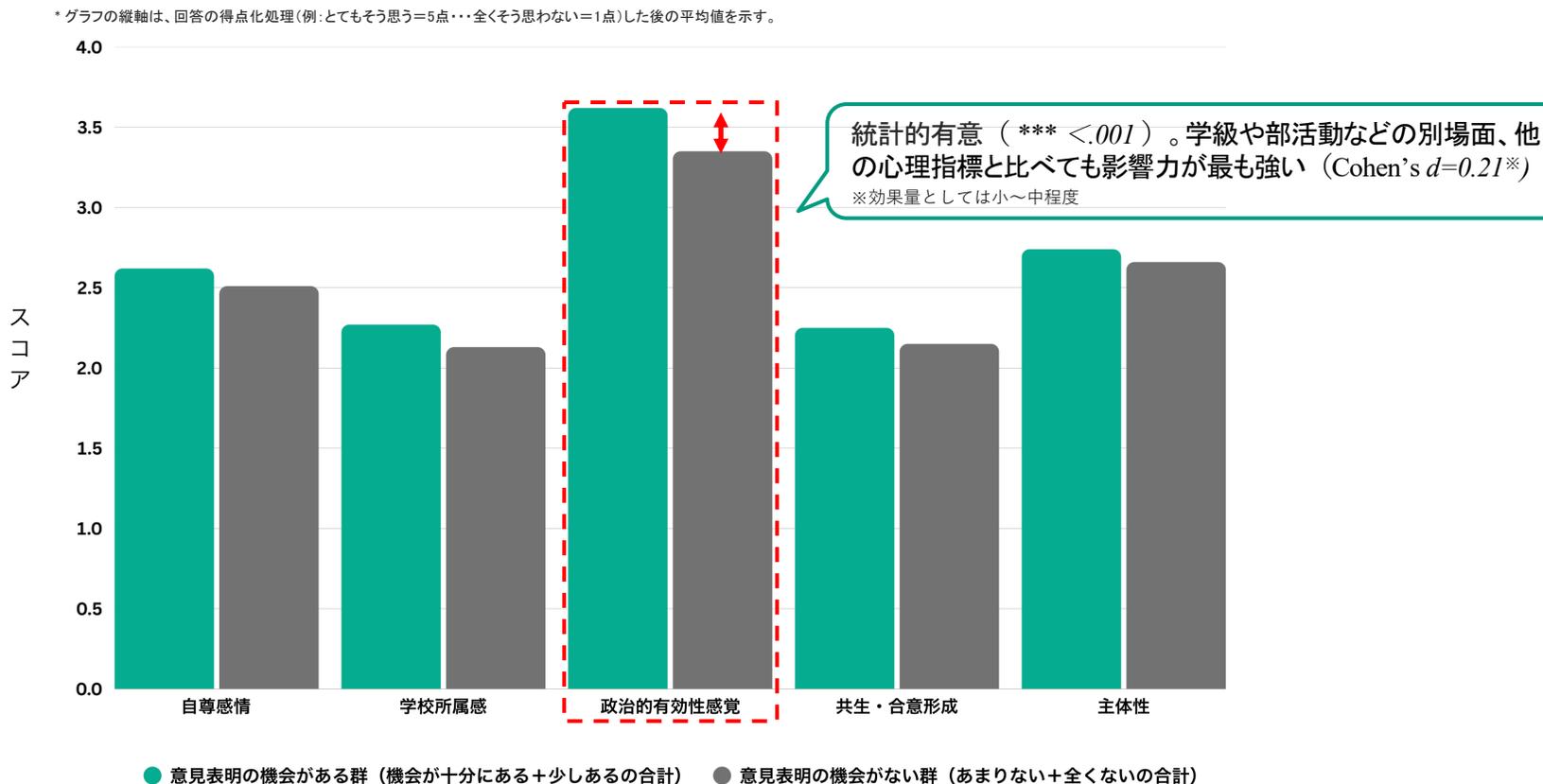


その上で、(1)の分類に基づき、4場面それぞれにおける意見を聞いてもらう機会が「十分にある」「少しある」と回答したグループ(高群)と、「あまりない」「全くない」と回答したグループ(低群)間の各心理指標の差を、ウェルチのt検定による群間比較を行った。

*共変量のバランスが調整されたペア同士での比較。マッチング後の共変量バランスを確認する解析を行い、結果、標準化平均差が概ね0.1以下であることを確認した。

【調査研究課題③】意見や考えを伝えたり、聞いてもらえたりする機会が充実した学校の生徒の特徴

学校(校則・学校行事・施設設備)に関する意見聴取・表明機会が「高い群」と「低い群」の比較



全ての分析結果のうち、学校レベルにおける意見聴取・表明の機会が充実している学校の生徒（高群）は、そうでない学校の生徒（低群）と比較して政治的有効性感覚が有意に高い傾向にある。これは、学級や部活動などの他場面における機会や、自尊感情、主体性などの他の心理指標と比較しても影響力が大きい。

【調査研究課題③】意見や考えを伝えたり、聞いてもらえたりする機会が充実した学校の生徒の特徴

(参考) 従属変数となる各心理指標と、4場面(学級、授業、学校、部活動)における、高群、低群の比較結果

心理指標※2	場面	高群		低群		t 値	p 値 ※2
		平均	SD	平均	SD		
自尊感情	(1) 学級	2.69	1.21	2.56	1.08	2.01	.045 *
	(2) 授業	2.67	1.10	2.51	0.96	2.73	.006 **
	(3) 学校	2.62	1.02	2.51	0.93	1.97	.049 *
	(4) 部活動	2.57	0.95	2.47	0.85	2.05	.041 *
学校所属感	(1) 学級	2.37	1.36	2.20	1.10	2.41	.016 *
	(2) 授業	2.29	1.22	2.12	0.99	2.63	.009 **
	(3) 学校	2.27	1.11	2.13	0.97	2.21	.028 *
	(4) 部活動	2.23	1.01	2.09	0.88	2.54	.011 *
政治的有効性※3	(1) 学級	3.50	1.79	3.36	1.55	1.45	.148
	(2) 授業	3.58	1.54	3.42	1.42	1.78	.075
	(3) 学校	3.62	1.48	3.35	1.31	3.38	.001 ***
	(4) 部活動	3.54	1.37	3.39	1.19	2.06	.040 *
共生・合意形成	(1) 学級	2.32	1.32	2.23	1.11	1.23	.221
	(2) 授業	2.24	1.20	2.14	0.98	1.59	.114
	(3) 学校	2.25	1.09	2.15	0.93	1.67	.097
	(4) 部活動	2.20	1.00	2.09	0.83	2.02	.044 *
主体性	(1) 学級	2.79	1.40	2.79	1.21	0.07	.943
	(2) 授業	2.79	1.25	2.61	1.11	2.50	.013 *
	(3) 学校	2.74	1.16	2.66	1.04	1.29	.199
	(4) 部活動	2.73	1.10	2.55	0.91	3.11	.002 **

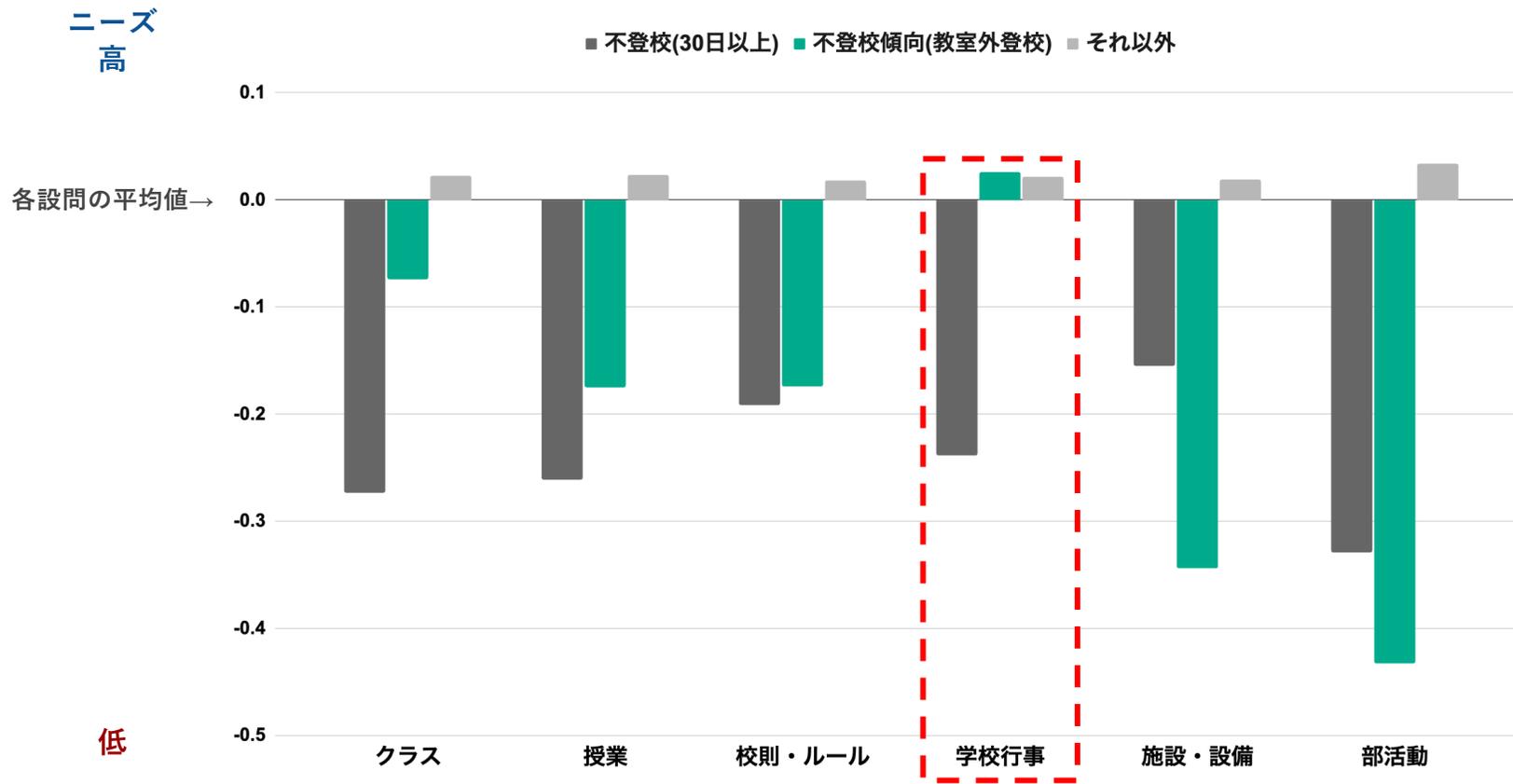
※1 傾向スコアマッチングにより、当該指標以外の心理指標をはじめとした背景情報を共変量として制御済み。

※2 p 値 *** p < .001, ** p < .01, * p < .05

※3 政治的有効性感覚の指標のみ5件法のため、5点までを得点として処理する。

【その他の分析結果】 不登校傾向との関連性

不登校、不登校傾向、それ以外の属性別の回答傾向について



グラフの縦軸は、回答の得点化処理(例:とてもそう思う=5点…全くそう思わない=1点)した後の平均値を示す。

長期欠席および不登校傾向の生徒は、全ての設問で平均値が低い（「あてはまらない」などの否定的な回答や「わからない」「どちらともいえない」といった曖昧な回答に集中する）傾向。一方で、不登校傾向（教室外登校等）の生徒*は「学校行事」について意見を聞かれたり考えを伝えたりすることができる機会について、一定程度の期待を持っていることが示唆される。

*ただし、不登校傾向の生徒の有効回答数は52人と少ないため、今後十分な検討が必要である。



【考察】 結果から見えてきたこと

● 生徒は学校のあらゆる場面で「意見や考えを聞いてほしい」というニーズを持っている

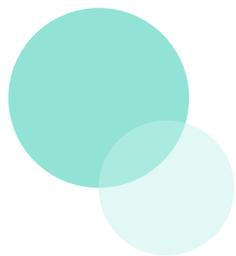
これまで学校における子どもの意見表明といえば「校則の見直し」などが話題になることが多かったが、生徒の意見聞いてほしいと感じているのは、校則だけではないことがわかった。「クラスの決まり」「授業の進め方」「部活動」「行事」「学校の設備」など、学校生活のあらゆる場面で、6～8割の生徒が「自分の意見を伝えたい」と感じている。

● 「学校のことに関して意見を伝える機会があること」が「社会を変える自信」につながる可能性

学校全体(校則・学校行事・施設設備)のことに関して意見を伝えられている生徒ほど、「自分の行動で国や社会を変えられる」という認識が有意に高い傾向にあることが明らかになった。学校で意見を伝えたり聞かれる経験によって、「自分も社会を動かす一人なんだ」という実感を育んでいる可能性が示唆される。

● 本音を言うために必要なのは「安心」と「信頼」

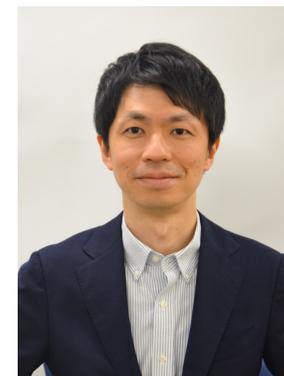
「意見を言ってもいいよ」と言われても、すぐには言えるとは限らない。生徒が意見を伝えやすくなるために必要な条件として、約7割の生徒が「安心して話せる雰囲気や場所」を求めていること、「信頼できる友達や先生」「秘密が守られること」も重要であることがわかった。



おわりに

専門家によるコメント

● 筑波大学人間系（教育学域） 助教 古田雄一先生より



こども基本法が施行されて早くも3年ほどが経ちました。そうした中で、子どもが長い時間を過ごす学校という場において、子どもは何を伝えたいと思っており、その声はどれだけ聴かれているのでしょうか。今回の調査は、こうしたテーマでの大規模調査が少ない中で、日本の中学校や高校における子どもの意見表明・参加の現在地を全国各地の中高校生自身の視点から知ることができる、貴重な手がかりだと思います。

調査結果からは、中高生の多くは、学校の様々なことについて意見があり、それを伝えたいと思っていることがうかがえます。学校に限らず、子どもの意見を集めるような取り組みでは、大人側が子どもの意見がほしいテーマについて、子どもに意見を求めることが少なくありません。もちろんそれも大切ですが、子どもの側が話したいことも対話の俎上にあげ、様々なことについて大人との対話の機会を作っていく必要性が改めて示唆されるように思います。

調査結果を分析していく中で、学校での意見表明・聴取の機会が、生徒の政治的有効性感覚とも関連しているという知見も得られました。つまり、生徒が学校のことに意見を言える場や環境の充実が、子どもの権利として重要であるとともに、民主主義社会の形成に参加していく主権者／市民を育むという教育的側面においても意義があるといえます。

ただし、単に意見を言える機会を形式的に設ければ良いというわけでは必ずしもなく、生徒にとっては、安心して思いや考えを話せる環境や、信頼できる友達や大人との関係性などが重要であることも、調査から浮かび上がってきました。日頃からの学級や学校の環境づくりが、意見表明の土台として大切ということでもあるでしょう。

さらに、近年増えている不登校／不登校傾向の生徒は、他の生徒とは学校への意見表明に対する受け止め方やニーズに違いがあるという示唆も、注目すべき点です。生徒の声やニーズは一枚岩ではなく、その中にある多様性に丁寧に目を向けながら、取りこぼされている声がないか、どうすれば掘り上げていくことができるか、考えていくことが求められています。

今回の調査結果を見ながら、先生方どうして、あるいは先生と生徒とで、是非対話を試みていただき、学校での子どもの意見表明をさらに前に進めていく一助にしていただけたらと思います。

みんなのルールメイキング 事業概要(1)

みんなのルールメイキング事業概要



2019年度より、子どもたちにとって最も身近な社会である「学校」において、校則・ルールの見直し、学級活動や委員会、行事運営などを通じて、**子どもたちが主体的に学校づくりに参画する経験（ルールメイキング）**を支援。

「**自分たちの学校は、自分たちでつくることができる**」という小さな成功体験を積むことで、自己効力感や社会参画への意欲を高めることを目指している。

本事業では、**立場や意見の異なる他者（児童生徒・教員・保護者など）との対話を通じて、価値観をすり合わせながら、ともに合意形成・意思決定をする経験を重視**。「結果」だけではなく「プロセスにおける学び」を大切にしている。

連携実績

■全国で支援している学校数 613校
小学校 101校 / 中学校 206校 / 高等学校 204校 他
※2026年3月時点

■連携自治体

- ・福井県教育委員会（2021年度）
- ・広島県教育委員会（2021年度）
- ・目黒区教育委員会（2023年度～2024年度）
- ・つくば市教育委員会（2022年度～現在）
- ・生駒市子ども政策課（2025年度）
- ・呉市子ども支援課（2025年度） 他

助成・ 受賞歴

2019年度～2022年度
経済産業省「未来の教室」実証事業

2024年度～2025年度
公益財団法人日本財団 助成

2025年度 グッドデザイン賞／
審査委員「私の選んだ一品」受賞



みんなのルールメイキング 事業概要(2)

みんなのルールメイキングで行っている支援

コーディネーター派遣・モデル実践



スクールメイキング、ルールメイキングの活動に取り組む学校にコーディネーターを派遣し、活動を伴走。教員や生徒と共に「納得解」を作っていきます
派遣実績：茨城県つくば市、東京都中野区 他

教員向け研修



「生徒指導」「生徒主体の学校づくり」「特別活動」などをテーマに、教員の方々への研修を随時実施しております
研修実績：東京都目黒区、茨城県つくば市、高知県、兵庫県三木市 他

自治体連携



教育委員会だけではなく、こども政策課や支援課など首庁部局との連携も実施。「こどもの意見表明・参画機会」の文脈も含めて、予算相談から実践まで共に考えます
連携自治体例：奈良県生駒市、広島県呉市 他

【ご案内】教員向けの教材や資料をご用意しております



児童・生徒とともに作る
POINT BOOK



ルールメイキング教員ガイド



みんなのルールメイキング宣言

詳細、ダウンロードは
こちらから



学校事例紹介

事例①加賀市立片山津中学校

#行事



体育祭や文化祭などの学校行事の運営にあたって、運動などに苦手意識のある生徒たちの声を積極的に取り入れ、「誰一人取り残さない学校づくり」に取り組む

事例②泉大津市立小津中学校

#校則見直し #学校のビジョン策定



校則の見直しから始まったルールメイキング活動は、学校の最上位目標であるビジョン策定に発展。授業や行事など全ての教育活動の指針になっている

事例③ 自由学園中部部

#委員会制度



委員会制度（副委員長の選出方法）の見直しを実施。一部の票が委員選出に反映されない課題解決に向け、全校生徒で対話し、全員が納得できる合意形成を目指した

事例④愛媛県立丹原高等学校

#行事 #学び合い



生徒一人一人の“やってみたい”を創造し、実現へつなげるプロジェクトを実施。異学年で交流できる行事企画や、小中学校とも連携し対話的な学び合いに取り組む

事例⑤長崎県立宇久高等学校

#校則 #ルール



生徒たちが主体的に「ルール」を探究することを目的に、一時的に校則をゼロにして学校生活を送る「No Rule Weeks」を実践。当たり前を問うことを大切にしている

事例⑥宮崎県立都城西高等学校

#設備 #学校魅力化



生徒数減少への課題意識から、生徒会を中心に学校魅力化の取り組みを実施。中庭を活性化させるため、生徒会が資金を集めて飲食スペースを設置するなどした

調査研究実施体制について

本調査は、以下の研究体制のもとで実施し、調査設計、データ収集・分析を行なった。

※所属は全て、2026年2月時点

【調査実施(認定NPO法人カタリバ)】

- 阿竹 隼耶 認定NPO法人カタリバ 研究所チーム / 京都大学大学院情報学研究科社会情報解析基盤講座
- 松井 公宏 認定NPO法人カタリバ 研究所チーム / 横浜市立大学附属病院児童精神科 特任助教
- 古野 香織 認定NPO法人カタリバ みんなのルールメイキング(研究調査事業担当)
- 藤本 雅衣子 認定NPO法人カタリバ みんなのルールメイキング(事業責任者)

【調査研究アドバイザー】

- 古田 雄一 筑波大学 人間系(教育学域) 助教

【質問紙作成・調査方法等への助言】

- 西崎 萌 一般社団法人Everybeing 共同代表

【調査レポート作成補佐】

- 草加 夢野 認定NPO法人カタリバ みんなのルールメイキング事業(広報担当)
- 児島 由圭 認定NPO法人カタリバ 広報チーム

【謝辞】

本調査は、公益財団法人 日本財団の助成(2025年度)を受けて実施した。

参考 調査票の全設問・回答一覧（1）

※構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります

1. 基本情報

SQ1.あなたは現在何年生ですか。

	件数	%
1 中学1年生	498	16.7
2 中学2年生	496	16.6
3 中学3年生	499	16.7
4 高校1年生	498	16.7
5 高校2年生	500	16.7
6 高校3年生	495	16.6
7 あてはまるものはない	0	0.0
全体	2986	100.0

SQ2.あなたの性別を教えてください。

	件数	%
1 男性	1489	49.9
2 女性	1497	50.1
3 その他/答えたくない	0	0.0
全体	2986	100.0

SQ3.あなたの学校の種類を教えてください。

	件数	%
1 公立	2015	67.5
2 私立	859	28.8
3 国立	112	3.8
全体	2986	100.0

SQ4.あなたの現在の学校の登校状況について、最も近いものを1つ教えてください。

	件数	%
1 学校に行っていない状態が一定期間ある（年間30日以上）	212	7.1
2 学校の校門、保健室、校長室などには行すが、教室には行かないことが多い	52	1.7
3 上記いずれもあてはまらない	2722	91.2
全体	2986	100.0

2. ニーズの把握

【あなたは以下の機会がほしいですか】

Q1.クラスでの決まりごとや困りごとについて、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる機会

	件数	%
1 とてもそう思う	747	25.0
2 ややそう思う	1100	36.8
3 どちらともいえない	557	18.7
4 あまりそう思わない	400	13.4
5 全くそう思わない	182	6.1
全体	2986	100.0

Q2.授業での進め方や学び方について、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる機会

	件数	%
1 とてもそう思う	855	28.6
2 ややそう思う	1179	39.5
3 どちらともいえない	504	16.9
4 あまりそう思わない	309	10.3
5 全くそう思わない	139	4.7
全体	2986	100.0

Q3.学校の校則・ルールについて、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる機会

	件数	%
1 とてもそう思う	1368	45.8
2 ややそう思う	938	31.4
3 どちらともいえない	391	13.1
4 あまりそう思わない	181	6.1
5 全くそう思わない	108	3.6
全体	2986	100.0

Q4.学校行事の内容や方針について、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる機会

	件数	%
1 とてもそう思う	1215	40.7
2 ややそう思う	1040	34.8
3 どちらともいえない	422	14.1
4 あまりそう思わない	198	6.6
5 全くそう思わない	111	3.7
全体	2986	100.0

Q5.学校の施設や設備について、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる機会

	件数	%
1 とてもそう思う	1242	41.6
2 ややそう思う	1050	35.2
3 どちらともいえない	411	13.8
4 あまりそう思わない	184	6.2
5 全くそう思わない	99	3.3
全体	2986	100.0

参考 調査票の全設問・回答一覧（2）

※構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります

（続き）【あなたは以下の機会がほしいですか】

Q6.部活動の進め方や決まりごとについて、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる機会

	件数	%
1 とてもそう思う	1202	40.3
2 ややそう思う	938	31.4
3 どちらともいえない	526	17.6
4 あまりそう思わない	197	6.6
5 全くそう思わない	123	4.1
全体	2986	100.0

Q7.学校のことについて、特にあなたの気持ちや考えを伝えたいと思うことは何ですか。理由も含めて教えてください。※特にない方は「なし」と記載してお進みください（自由記述）

（回答省略）

Q8.学校のことについて、あなたの気持ちや考えがよりよく伝わると思う方法はどれですか。当てはまるものをすべて選択してください（複数選択）

	件数	%
1 アンケート	1864	62.4
2 目安箱	963	32.3
3 チャットツール	628	21.0
4 生徒総会での話し合いや提案	608	20.4
5 委員会活動での話し合いや提案	439	14.7
6 学級会・ホームルーム活動での話し合いや提案	649	21.7
7 授業での話し合いや提案	613	20.5
8 部活動での話し合いや提案	564	18.9
9 担任の先生への相談	849	28.4
10 担任以外の先生への相談	491	16.4
11 教員以外の大人への相談	295	9.9
12 友達への相談	856	28.7
13 その他	9	0.3
14 わからない	259	8.7

Q9.学校のことについて、あなたの気持ちや考えを伝えたいときに、どのような支援や条件があると伝えやすいですか。当てはまるものをすべて選択してください。（複数選択）

	件数	%
1 安心して話すことができる雰囲気・空間があること	2006	67.2
2 信頼できる先生がいること	1569	52.5
3 信頼できる友達がいること	1666	55.8
4 十分な時間があること	1178	39.5
5 自分に合った方法で伝えられること	1044	35.0
6 自分の気持ちや思いを大切に扱ってくれること	1190	39.9
7 実際に自分の気持ちや思いが反映されること	920	30.8
8 秘密が守られること	1434	48.0
9 誰かと一緒に考えたり、伝えたりできること	842	28.2
10 その他	8	0.3
11 わからない	240	8.0

Q10.あなたの学校での生徒の気持ちや考えの聞かれ方について、改善してほしいことや、「こうになったらいいのにな」と思うことがあれば教えてください。※特にない方は「なし」と記載してお進みください。（自由記述）

（回答省略）

Q11.学校における決まりごとや方針は、生徒の気持ちや思いを十分に聞いたうえで決めてほしいと思いますか。

	件数	%
1 とてもそう思う	1658	55.5
2 ややそう思う	822	27.5
3 どちらともいえない	335	11.2
4 あまりそう思わない	107	3.6
5 全くそう思わない	64	2.1
全体	2986	100.0

3. 実態の把握

【あなたの学校では、以下の機会がどのくらいありますか】

Q12.クラスでの決まりごとや困りごとについて、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる機会

	件数	%
1 十分にある	651	21.8
2 少しある	1123	37.6
3 あまりない	842	28.2
4 まったくない	200	6.7
5 わからない	170	5.7
全体	2986	100.0

Q13.授業の進め方や学び方について、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる機会

	件数	%
1 十分にある	619	20.7
2 少しある	1027	34.4
3 あまりない	883	29.6
4 まったくない	282	9.4
5 わからない	175	5.9
全体	2986	100.0

Q14.学校の校則・ルールについて、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる機会

	件数	%
1 十分にある	603	20.2
2 少しある	983	32.9
3 あまりない	851	28.5
4 まったくない	371	12.4
5 わからない	178	6.0
全体	2986	100.0

参考 調査票の全設問・回答一覧（3）

※構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります

（続き）【あなたの学校では、以下の機会がどのくらいありますか】

Q15. 学校行事の内容や方針について、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる機会

	件数	%
1 十分にある	670	22.4
2 少しある	1055	35.3
3 あまりない	774	25.9
4 まったくない	289	9.7
5 わからない	198	6.6
全体	2986	100.0

Q16. 学校の設備や環境に関することで、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる機会

	件数	%
1 十分にある	507	17.0
2 少しある	829	27.8
3 あまりない	966	32.4
4 まったくない	475	15.9
5 わからない	209	7.0
全体	2986	100.0

Q17. 部活動の進め方や決まりごとについて、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる機会

	件数	%
1 十分にある	688	23.0
2 少しある	950	31.8
3 あまりない	754	25.3
4 まったくない	269	9.0
5 わからない	325	10.9
全体	2986	100.0

Q18. 学校のことについて、あなたの気持ちや考えを伝えるために、実際に活用したことがある方法があれば、すべて選択してください。（複数選択）

	件数	%
1 アンケート	1544	51.7
2 目安箱	699	23.4
3 チャットツール	357	12.0
4 生徒総会での話し合いや提案	590	19.8
5 委員会活動での話し合いや提案	446	14.9
6 学級会・ホームルーム活動での話し合いや提案	531	17.8
7 授業での話し合いや提案	487	16.3
8 部活動での話し合いや提案	441	14.8
9 担任の先生への相談	599	20.1
10 担任以外の先生への相談	336	11.3
11 教員以外の大人への相談	196	6.6
12 友達への相談	614	20.6
13 その他	3	0.1
14 どれも活用したことはない	584	19.6

Q19. あなたの学校のことについて、生徒の気持ちが聞かれたり、考えを伝えることができる仕組みや方法はありますか。

	件数	%
1 十分にある	615	20.6
2 まあまあある	1314	44.0
3 ほとんどない	611	20.5
4 まったくない	137	4.6
5 わからない	309	10.3
全体	2986	100.0

Q20. あなたの学校における決まりごとや方針は、生徒の気持ちや考えを十分に理解したうえで決定されていると思いますか。

	件数	%
1 とてもそう思う	534	17.9
2 ややそう思う	1025	34.3
3 どちらともいえない	812	27.2
4 あまりそう思わない	430	14.4
5 全くそう思わない	185	6.2
全体	2986	100.0

4. 心理特性

【次のことについて、あなた自身にどのくらいあてはまりますか】

Q21. 私は、自分自身にだいたい満足している。

	件数	%
1 とてもそう思う	746	25.0
2 ややそう思う	1190	39.9
3 あまりそう思わない	706	23.6
4 全くそう思わない	344	11.5
全体	2986	100.0

Q22. 自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる。

	件数	%
1 とてもそう思う	892	29.9
2 ややそう思う	1124	37.6
3 あまりそう思わない	659	22.1
4 全くそう思わない	311	10.4
全体	2986	100.0

Q23. 私は、現在通っている学校に自分の居場所があると感じる。

	件数	%
1 とてもそう思う	1183	39.6
2 ややそう思う	1258	42.1
3 あまりそう思わない	381	12.8
4 全くそう思わない	164	5.5
全体	2986	100.0

Q24. 自分と違う意見について考えることは楽しいと思う。

	件数	%
1 とてもそう思う	1123	37.6
2 ややそう思う	1275	42.7
3 あまりそう思わない	439	14.7
4 全くそう思わない	149	5.0
全体	2986	100.0

参考 調査票の全設問・回答一覧（4）

※構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります

(続き) .【次のことについて、あなた自身にどのくらいあてはまりますか】

Q25.私は、学校をよりよい場所にするために、自ら行動したいと思う。

	件数	%
1同意する	722	24.2
2どちらかといえば同意する	1008	33.8
3どちらともいえない	740	24.8
4どちらかといえば同意しない	310	10.4
5同意しない	206	6.9
全体	2986	100.0

Q26.私は、自分に関することは自分で決められると思う。

	件数	%
1同意する	1001	33.5
2どちらかといえば同意する	1072	35.9
3どちらともいえない	603	20.2
4どちらかといえば同意しない	213	7.1
5同意しない	97	3.2
全体	2986	100.0

Q27.自分の行動で、国や社会を変えられると思う。

	件数	%
1同意する	507	17.0
2どちらかといえば同意する	626	21.0
3どちらともいえない	771	25.8
4どちらかといえば同意しない	549	18.4
5同意しない	533	17.8
全体	2986	100.0